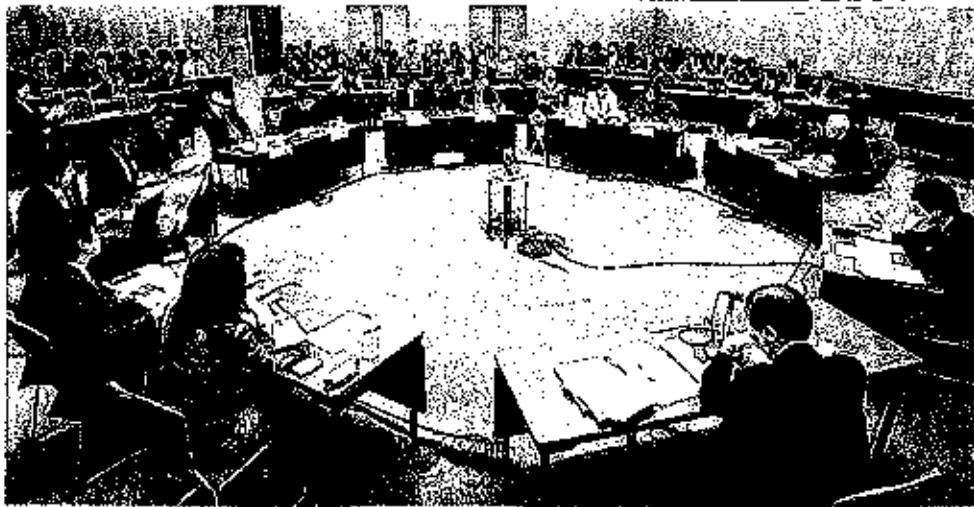


環境保全へアジア一丸

ジャーナリスト会議 宣言採択

福岡市



アジアの「交通と環境」をテーマにした「アジア都市ジャーナリスト会議」が10日、福岡市博多区石城町の福岡国際会議場で開かれた。アジア各都市で深刻化する環境悪化に対処するため参加者は「環境問題に関する経験と知識を共有し、報道を通して解決のために協力する」などとすることを宣言した。

アジア各国の記者らが集まった「アジア都市ジャーナリスト会議」。交通と環境をテーマに議論が展開された。10日、福岡市博多区の福岡国際会議場

スト会議」が10日、福岡市博多区石城町の福岡国際会議場で開かれた。アジア各都市で深刻化する環境悪化に対処するため参加者は「環境問題に関する経験と知識を共有し、報道を通して解決のために協力する」などとすることを宣言した。

【3面】焦点フォーカス
国連人間居住計画（ハビタット）アジア太平洋事務所（福岡）の開設十周年と、西日本新聞創刊百三十周年を記念して開催。今年八月にはアジア八カ国十都市の新聞社の記者による「パートナーシップ」をテーマに討議した。今回のパートナー2では、同じ新聞社の編集委員クラスを中心とした十人に、菊池恵夫・西日本新聞編集局長が加わった。

参加者は温室効果ガス削減に向けた各都市の政策として、モノ・エネルギーなど公共交通機関の活用やハイブリッド車など新技術を用いた車両の利用促進などを紹介。各メディアの連携策については、本紙の友好紙でもある釜山日報の李賢・編集局長が「インターネットを活用すれば大気汚染など都市の悩みも交換できる」と情報共有の重要性を指摘した。

環境問題と対策議論

都市連携や積極報道要望

福岡市でジャーナリスト会議

会場に市民100人



「アジア都市ジャーナリスト会議」の議論を熱心に聞く聴衆

アジアの環境問題にメア会場の約百人からは、都にいいところを学び合え、ディが果たすべき役割、市間の連携や、より積極「ほしい」と今後の都市連は何か。10日、福岡市博多区福岡国際会議場を要望する所が聞かれた。ジャーナリスト会議で、福岡市中央区の会社員小谷一公さん（58）は環境問題に対するアジアの取組みについてメモを取った。このことから、都市間で互いに生かしたい。

「環境問題に関する記事をもっと新聞に掲載してほしい」と話したのは小谷市の会社員元川啓一さん（60）。環境破壊は人類最大の課題になりつつある。他国の状況ももっと報道してほしい」とメディアに注文した。同市の市民団体代表牟田慎一郎さん（60）もメディアの役割に注目する。「ジャーナリストは環境問題に関する正しい理解と知識を市民に広げたい」と要望。市民や行政に対し、持続可能な発展の道筋を示してほしい」と期待した。

国境超え環境報道を

「焦点」

「環境との対話」持続可能なアジアの都市づくりを日指して」と題し、福岡市で十日開かれた「アジア都市ジャーナリスト会議」は、九カ国十一都市のメディアの編集幹部らが約三時間にわたり踏み込んだ論議を展開。参加者は、地球温暖化問題が国境を超えた緊急課題と再確認し、各メディアの連携による情報発信など、地球環境保全に向けた具体的な行動を始めると決意を新たにした。

【一面参照】

アジアジャーナリスト会議

実践へ危機感共有

今回の会議は、アジア一調した。の経済発展に伴い深刻化する各都市の交通渋滞や大気汚染を受け、生活環境の改善に向けたメディアの役割と、その連携方法を探ることが大きなテーマだった。

参加者は、いずれも口を揃えて、環境問題の深刻さや自社の報道状況を紹介。フィリピン・デイリー・インクワイヤラーのシンシア・デルカド・バラナ編集長は「メディアは監視役であると同時に、環境改善の取り組みを支援するのも役割だ」と強調する。

参加メデリアがそれぞれコラムを設け、他社の環境記事を載せてはどうか」と提案。タイ・マデイチョン紙のキャティチャイ・ボンパニッチ顧問は「メデリアも国境を超え、戦略的な行動計画に基づく取り組みが必要だ。それは私たちが決意していた」と訴え

た。「記者も学ばねばならぬ。専門的な話を分かりやすくした記事が必ず必要」と、専門記者育成が課題、との指摘も相次いだ。

「記者も学ばねばならぬ。専門的な話を分かりやすくした記事が必ず必要」と、専門記者育成が課題、との指摘も相次いだ。

「記者も学ばねばならぬ。専門的な話を分かりやすくした記事が必ず必要」と、専門記者育成が課題、との指摘も相次いだ。

※参加都市のアルファベット順(主催除く)

アジアジャーナリスト会議参加者

- ◆キャティチャイ・ボンパニッチ氏(マデイチョン顧問) タイ・バンコク
- ◆李賢(イ・ヒョン)氏(釜山日報編集局長) 韓国・釜山
- ◆鄭宗凱氏(大連日報副社長) 中国・大連
- ◆黄卓卓氏(広州日報編集局長次長) 中国・広州
- ◆トー・ディン・トゥアン氏(サイゴン解放編集局長) ベトナム・ホーチミン
- ◆ロバート・アディ・クスマプトラ氏(コンパス記者) インドネシア・ジャカルタ
- ◆ファイザ・イズマイル氏(ニュー・ストレート・タイムズ編集局長) マレーシア・クアラルンプール
- ◆シンシア・デルカド・バラナ氏(フィリピン・デイリー・インクワイヤラー編集委員) フィリピン・マニラ
- ◆王勇氏(上海日報編集局長次長) 中国・上海
- ◆ン・ホン・クワン氏(連合早報編集委員) シンガポール
- ◆菊池忠美氏(西日本新聞社編集局長) 福岡市

※参加都市のアルファベット順(主催除く)

「記者も学ばねばならぬ。専門的な話を分かりやすくした記事が必ず必要」と、専門記者育成が課題、との指摘も相次いだ。

※参加都市のアルファベット順(主催除く)